

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463234

研究課題名(和文) 新人看護師が終末期がん患者に寄り添う力を支援する看取りケア教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of educational program for end-of-life care to guide novice nurses in supporting terminal cancer patients throughout their treatment journey.

研究代表者

坂下 恵美子 (SAKASHITA, Emiko)

宮崎大学・医学部・助教

研究者番号：70511195

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は一般病棟の新人看護師が終末期がん患者に寄り添う力を育成・支援する看取りケア教育プログラム作成のための基礎研究であり、3つの調査を実施した。まず、病院の教育責任者への目録式質問紙調査から看取り教育の現状と課題を把握した。次に新人看護師への面接調査から、新人看護師の看取り教育に関する支援ニーズを明らかにした。また、新人看護師が推薦する中堅看護師に面接調査を実施し、中堅看護師の看取りにかかわる新人看護師への支援方法や教育的機能を明らかにした。この結果、看取り経験で困難を抱える新人看護師の教育・支援は、集合研修ではなく、臨床現場での実経験に連動できるプログラムの開発が必要であると示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aims to create an end-of-life care educational program to prepare novice nurses in a general ward to be equipped to care for a terminal cancer patient. I conducted three investigations in order to obtain the relevant data. First, I conducted question paper investigation of the person in charge of education at a hospital, and grasped the present condition and the problem of end-of-life care education in the general ward of a general hospital. Next, I collected data through interviews of the novice nurses, and clarified the support needed for end-of-life care education. Third, I interviewed senior clinical nurses recommended by the novice nurses and clarified the support method and educational function of the novice nurses who need to intervene in end-of-life care. The results of the data collected revealed that an educational program appropriate to the experience of novice nurses was required for those novice nurses who might find the terminal experience difficult.

研究分野：看護学

キーワード：新人看護師 看取り 中堅看護師 終末期がん患者 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

日本人の2人に1人ががんに罹患すると言われ、患者の約8割が一般病棟で亡くなっている。全人的痛みによって、ネガティブに陥った終末期がん患者の感情は、看護師と相互に影響し合い、巻き込まれてしまう看護師も多い。したがって、看護師には自己をエンパワメント(Gibson, 1991)し前向きな気持ちで患者へのケアを実践することが求められる。

先行研究(坂下、2008、2012)において、一般病棟で終末期がん患者に粘り強くかかわることができるかと答えた中堅看護師(臨床経験5年以上の看護師)に、看護師の粘り強くわる力についての面接調査を行った。その結果、中堅看護師は終末期がん患者とかかわることに困難を感じ、様々な看取りを経験し、経験からの気づきや学びを得て、『寄り添う力』を熟成させていることが示唆された。さらに、一般病棟の臨床経験2年目~4年目である「新人から一人前レベル」(Benner, 1992)の若手看護師にも、終末期がん患者とかかわり困難を感じた経験について面接調査を行った。その結果、若手看護師は、終末期がん患者とのかかわりにネガティブな感情を抱き、危篤間近ながん患者を担当することに負担を感じていた。彼女らは、仕事に慣れていないため業務をこなす事で精一杯であり、経験した看取りを振り返る余裕もなく、自尊感情の低下や無力感を呈する傾向にあった。しかし、入職して間もない新人看護師の看取り経験について殆ど研究されていないことがわかった。

日本では、保健師助産師看護師法の一部改正により、2010年4月より新人看護職員の臨床研修が努力義務化された。厚生労働省が提示した(2011)「新人看護職員研修ガイドライン」「技術指導の例」を見ると、技術的側面や管理的側面に焦点を当てた新人教育プログラムとなっている。各病院・施設において新人教育は、医療行為の補助や管理といった技術面に力が注がれ、入職して間もなく出会うであろう終末期がん患者へのケアや、そのケアを行う新人看護師の認知面への対応は、後回しにされていると考える。人を看取るという経験は死生観の成長に大きく影響する(天津、2007)。新人看護師が経験する看取りをネガティブな感情だけで終わらせるのではなく、終末期がん患者と『寄り添う力』を獲得するための経験として捉えていけるようにするために、新人看護師への看取り教育プログラムを開発しなければならないと考えた。

<引用文献>

- 1) Gibson, C.H(1991): A Concept analysis of empowerment, Journal of Advanced Nursing, 16, 354-361
- 2) 坂下恵美子(2008): 終末期がん患者の看取り経験の中に存在する看護師の心の壁の検討、愛媛県立医療技術大学紀要、5(1)

- 3) 坂下恵美子、東サトエ、津田紀子(2012): 終末期がん患者の看取り経験の中に存在する看護師のエンパワメントの検討、南九州看護研究誌、10(1)、9-18
- 4) Benner 著、井部俊子監訳(1992): ベナー看護論 達人ナースの卓越性のパワー、医学書院
- 5) 厚生労働省(2011)  
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/s1225-24.html[1013年9月12日]
- 6) 天津栄子(2007): 【死にゆく人の理解】死生観と看取り死生観を看取りに活かす、臨床看護、33(13)、1965-1969

2. 研究の目的

新人看護師が終末期がん患者に寄り添う力を育成・支援する看取りケア教育プログラム開発の基礎資料を得るために、以下を研究目的とした。

- (1) 一般病院・病棟における新人看護師への看取り教育の現状と課題を明らかにする。
- (2) 終末期がん患者の看取りにかかわる新人看護師の意識と教育的支援ニーズを明らかにする。
- (3) 新人看護師を支え指導する中堅看護師の教育的機能を明らかにする。

<用語の定義>

看取り: 終末期の亡くなる時だけを意味するのではなく、回復の見込みがなくなった時期から患者が亡くなるまでの過程において看護師としてかかわった経験のこと。

新人看護師: 新卒看護師を示しており、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」で示す。免許取得後に初めて就労する看護師のこと。

3. 研究の方法

- (1) 「新人看護師に対する看取り教育の現状と課題」

対象者は九州・沖縄で200床以上の一般病床を有する179の病院に勤務する新人看護職員研修責任者であり各施設1名に自記式質問紙を郵送した。内容は新人看護職員研修の実施状況、新人看護師への看取り教育の必要性、新人看護師を支える体制、新人看護師を支える体制の問題点・課題、看取りにかかわる新人看護師の心理支援の取り組みについて調査した。分析は、量的データはSPSS Ver.22で記述統計を行い、質的データは質的帰納的に分類し、カテゴリー化した。

- (2) 「看取りにかかわる新人看護師の意識と教育的支援ニーズ」に関する面接調査

対象者は九州3県6施設の200床以上の一般病床を有する病院に勤務する新人看護師13名(入職6ヶ月以上、1年6ヶ月以内)。

施設の看護部研修責任者に研究協力依頼を行い、看護部長の了解を得て新人看護師に看取り経験の有無を調査し、看取り経験のある新人看護師に研究協力依頼を行い、面接調査を実施した。調査内容は看取りを経験して感じた思いや行動を自由に語ってもらった。分析は、研究協力者の承諾を得て語りの内容をICレコーダーに録音し、逐語録を作成し、修正版グラウンデッドセオリーの分析手法を用いて質的に分析した。

### (3) 「新人看護師を支え指導する中堅看護師の教育的機能」についての面接調査

対象者は九州3県4施設の200床以上の一般病床を有する病院に勤務する、新人看護師からロールモデルとして推薦された中堅看護師7名(臨床経験3年以上)、面接調査は、終末期がん患者の看取りにかかわる新人看護師に対する思いや看取りにかかわる新人指導への意識を自由に語ってもらった。分析は、研究協力者に承諾を得て語りの内容をICレコーダーに録音し、逐語録を作成し、類似する文脈ごとに分割し、サブカテゴリー、カテゴリーを作成した。

### (4) 倫理的配慮

研究代表者の所属する大学の倫理審査委員会より承認を受けた。

## 4. 研究成果

### (1) 「新人看護師に対する看取り教育の現状と課題」

#### ①結果

九州・沖縄で200床以上の一般病床を有する179の病院の新人看護職員研修責任者(以下、研修責任者)に自記式質問紙を郵送し46名(回収率25.7%)から回答を得た。研修責任者の役職は看護師長30名(65.2%)副看護部長14名(30.4%)看護部長1名(2.2%)副師長1名(2.2%)であり、全ての施設で新人看護職員研修は実施されていた。新人看護職員研修実施状況は「全て院内で実施」32施設(69.5%)「一部外部機関で実施」13施設(28.3%)「無記入」1施設(2.2%)であった。新人への看取り研修の必要性について37名(80.4%)が必要な理由を記載し、その内容は、「看護師との成長(倫理観・看護観・死生観)に影響」(記述数26)「時代のニーズとして重要な看護の役割と技術」(記述数17)「リアリティショックの緩和」(記述数17)の記述があった。施設の新人看護師を支える体制は「整っている」9施設(19.6%)「ほぼ整っている」24施設(52.2%)「一部整っていない」13施設(28.3%)「整っていない」0施設(0%)であった。体制整備の課題(自由記載)は「現場の新人教育への意識の低さ」(記述数5)「指導者が定着しない」(記述数4)「指導担当者の負担」(記述数3)「指導者の指導力不足」(記述数3)「集合教育後のサポート不足」(記述数3)「研修内容と効果」

(記述数2)「メンタルヘルスサポート体制の未整備」(記述数2)「専属指導者がいつでもかかわれない」(記述数2)が挙げられた。新人看護職員研修における看取りにかかわる新人看護師の心理支援の取り組み(自由記載)では「院内・院外研修の実施」(記述数8)「気持ちを表出する場を作る」(記述数6)「傍で支える」(記述数5)「心理専門職の介入」(記述数3)「カンファレンスの実施」(記述数3)「専門・認定看護師のサポート」(記述数2)「個人面接の実地」(記述数1)が取り組まれていた。看取り研修を含む研修実施で、「死亡時のケア」は「実施」41施設(89.1%)「未実施」5施設(10.9%)であった。実施41施設の研修実施形態は「集合研修」26施設(63.4%)「各部署任せ」15施設(36.6%)と回答した。

#### 考察

質問紙調査の結果より、新人看護職員研修は定着していた。平成26年度の「新人看護職員研修ガイドライン」の改訂により「看護技術についての到達目標」に「死亡時のケアに関する技術」が追加されたこともあり、新人看護職員研修で「死亡時のケア」に関する研修は89.1%の施設で取り組まれていた。しかし、新人看護師が終末期の患者にかかわる上での支援や教育に関する取り組みはまだまだ不十分であると考えられた。新人看護師を支える体制整備の課題では、「指導者に関するもの」「心理支援」「部署連携」が挙げられており、新人看護師への看取り教育を検討する上でも重複する課題だと考えられた。

経験未熟な新人看護師が死に向き合うことは心理的負担が大きく、個々の努力で解決は難しい。それゆえ、新人が死に向き合う場面に直面しても、新人を支援する体制があり安心感を抱くことができる看取り教育を段階的に初年次から導入し、新人の看取り経験を看護師としての成長に繋ぐ取り組みの検討が必要である。

### (2) 「看取りにかかわる新人看護師の意識と教育的支援ニーズ」

#### ①結果

研究協力者は、平成26年度の自記式質問紙調査実施時に、同時に行った新人看護師への看取り経験に関する面接調査の協力依頼で、研究協力の内諾を得た5施設と新たに研究依頼を行い、内諾を得た1施設、計6施設の新人看護師(臨床経験6カ月以上、1年6カ月未満の看護師)13名。年齢は21歳2名、22歳2名、23歳6名、24歳2名、25歳1名であり、平均年齢22.8歳、面接時間46.0分であった。

新人看護師の看取り経験は、がん患者の急変や元気だった患者がだんだん悪くなる状況、患者や家族が終末期であることを受け入れていない状況など看取り経験の内容は様々であった。また部署によって看取りの数や経験時期にも違いがあった。

新人看護師が入職して経験する看取りは、【仕事になれていない緊張と焦り】の中で、終末期に入った患者のケアに携わることで、新人看護師は【終末期がん患者の心情を憂う】思いが強くなる。しかし、技術も知識も経験も十分ではない新人看護師は、患者やその家族とかかわる中で【終末期へのかかわりの難しさ】【経験のない末期患者を受け持つ不安】【終末期の急変・変貌への驚き】【亡くなった患者に触れる驚き】を抱いた。新人看護師は終末期の患者や家族とのかかわりで困難を感じた時、自分から他のスタッフに相談し助けを求められる者もいるが、自分からは支援を求められずに【不安を抱え込む】者もいた。患者の終末期にかかわることに不安を抱える新人看護師を臨床現場で支えているのは、新人のことを気にかけてくれる先輩看護師の存在であり、新人看護師は支援してくれる先輩看護師に対して【困った時に頼れる】【自分を見守ってくれる】と安心できた。終末期患者へのかかわりに困惑する新人は、先輩がどんな看護を提供しているのか気になり始めて【看取りのスキルを学(ぶ)】意識が芽生える。そして、出来ないなりに【自分にできる看護を実践】していく中で【看取りを経てからの姿勢の変化】や【状況や人への距離感の変化】が生まれた。

#### 考察

新人は、患者の看取りを経験する過程で、命の終末にかかわるからこそ感じる不安や悩みを抱えており、亡くなって後悔を抱く者も多い。看取りで不安や悩みを抱える新人を臨床現場で支援していくことが必要である。多くの病院で新人研修プログラムにナラティブやリフレクションを取り入れているが、新人が看取り経験で抱えた悩みを経験直後に振り返り、解決の糸口を模索できるような指導・支援方法の検討が必要と考える。

### (3) 「新人看護師を支え指導する中堅看護師の教育的機能」

#### ①結果

研究協力者は、九州3県内の200床以上の病院に勤務し、新人看護師(4施設、6病棟)からロールモデルとして推薦された中堅看護師(臨床経験3年以上)7名である。臨床経験は4年目1名、6年目1名、8年目2名、12年目1名、22年目1名、30年目1名(平均12.9年)であり、年齢は20代3名、30代2名、40代1名、50代1名であった。全員がプリセプターの経験があり、院内のプリセプター又は実習指導者講習会の受講経験があった。

ロールモデルの中堅看護師が実践する看取りにかかわる新人看護師の指導支援は、【新人の経験と知識の把握】【安心できる環境を整えて見守る】【新人にお手本を示す】【言葉や行動で補足し、気づきを共有する】【衝撃を和らげる】の5つのカテゴリーで構成されていた。中堅看護師の新人に対する姿

勢は【自分の常識に当てはめてはいけない】【新人の個性の認識】【何も看護できていないのではない】の3カテゴリーで構成されていた。中堅看護師は、看取りにかかわるために必要な意識として【終末期患者の急変リスク】【最期まで語り掛ける】【家族が今を乗り越えるための支援】【状況をくみ取り環境を整える】【状況をきちんと見て行動する】【柔らかく接する】【情報を把握した上で話し、傾聴する】【他職種の介入の判断】の8カテゴリーを新人看護師が意識し終末期がん患者にかかわるよう指導していた。そして、【先輩に何でも相談することが大事】【先輩のスキルを見て自分のものにする】ことを促した。新人看護師の悩みを察知し【一緒に振り返り気づきを促す】【新人の経験と思いを共感する】【良いところ認め、言葉で褒める】【悩みを抱えたままにさせない】の4カテゴリーの新人看護師に寄り添い支える意識があった。また、新人から思いも寄らない答えが返ってきたり、新人の見せる表情から、新人を【自分の常識に当てはめてはいけない】と自己内省し、【何もできていないのではない】【新人の個性の認識】をした指導を心掛けていた。中堅看護師は、看取りにかかわる新人看護師の困難を【できることがないと感じる苦悩】【力量の無さを痛感し、苦しくなる心との葛藤】【人の死に直面する衝撃】の3カテゴリーを捉え新人の心情を理解しようとしていた。中堅看護師は、自分の新人の頃の看取り経験の記憶を新人に重ね合わせながら、看取りにかかわる新人が直面している困難をくみ取り過去の【看取りに怯える自分が蘇る】ことで新人に対する共感的姿勢へとつながった。

#### 考察

ロールモデルの中堅看護師は、自分が看取りを経験し実感した思いを新人看護師にも理解してもらい、終末期の患者や家族を注視してほしいと感じている。また、新人の頃に経験した終末期にかかわる不安や怖さを目の前の新人看護師の経験に重ね合わせ、深く共感しながら支えようとする姿勢があった。この意識が新人の抱える悩みを敏感に察知し声を掛ける行為となり、新人看護師にとっては、その配慮が心強さや安心感に繋がり、ロールモデルとして捉えていることが推察できた。ロールモデルの中堅看護師は、新人を一括りに捉えることなく、新人それぞれの個性や経験を把握・理解したうえで新人の指導に取り組んでいた。新人とペアで病室を担当する機会があれば、自分が看取りのかかわりで意識するポイントやスキルを、意図的に行動や言葉で示し、新人の気づきを引き出そうとしていた。さらに、指導時の新人の反応から、自分と新人との常識の違いを実感し、自分の認識を変えて新人指導に携わらなければいけないと感じていることも伺えた。新人看護師が自らのロールモデルとして信頼する中堅看護師は、看取りにかかわる新人看

看護師を積極的に支援する姿勢があり、新人看護師は相談できる先輩として、具体的な悩みや思いを表出できると示唆された。中堅看護師は、新人看護師の言葉や表情からがん終末期に抱く戸惑いや困難を的確に捉えていた。

#### (4) 今後の展望

新人看護師は、がん患者の看取りを経験する際に技術面や心理面に不安を抱えている。新人が患者の終末期にかかわりながら、患者と寄り添える力を獲得するために、臨床現場で取り組める教育・支援を検討していく。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

- ① Kayo NISHIDA, Emiko SAKASHITA, Yuriko OKAWA, Madoka KONISHI, Current state of education support for newcomer nurses involved in end-of-life care in general hospitals -From the perspective of enforcement managers of newcomer nursing staff training-, Bulletin of Ehime Prefectural University of Health Sciences, 12 (1), 2015, 31 - 35, (No peer-reviewed )

[学会発表](計7件)

- ① 坂下恵美子、大川百合子、西田佳代、看取りにかかわる新人看護師のロールモデルである中堅看護師が実践している新人看護師指導の現状 <第1報>、第36回日本看護科学学会学術集会、2016.12.10-11、東京国際フォーラム(東京都千代田区)  
坂下恵美子、大川百合子、西田佳代、看取りにかかわる新人看護師のロールモデルである中堅看護師が実践している新人看護師指導の現状 <第2報>、第21回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会、2016.11.12、宮崎県立看護大学(宮崎県宮崎市)  
坂下恵美子、大川百合子、西田佳代、ロールモデルである中堅看護師の捉えた看取りにかかわる新人看護師の困難、第40回日本死の臨床研究会年次大会 2016.10.8-9、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)  
坂下恵美子、西田佳世、大川百合子、新人看護職員研修における看取り教育の実態、第35回日本看護科学学会学術集会、2015.12.5-6、広島国際会議場(広島県広島市)  
坂下恵美子、西田佳代、大川百合子、中規模以上の病院における新人看護職員研修運営に関する現状及び課題、第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会、2015.11.21、琉球大学医学部(沖縄県中頭郡)

西田佳世、坂下恵美子、大川百合子、一般病院・病棟における新人看護師に対する看取り教育の現状と課題(第1報) 研修実施担当者の視点、第41回日本看護研究学会学術集会、2015.8.22-23(広島国際会議場 広島県広島市)

坂下恵美子、西田佳世、大川百合子、一般病院・病棟における新人看護師に対する看取り教育の現状と課題(第2報) 新人看護師への支援体制と心理的支援の現状、第41回日本看護研究学会学術集会、2015.8.22-23、広島国際会議場(広島県広島市)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

坂下 恵美子 (Emiko Sakashita)

宮崎大学・医学部・助教

研究者番号：70511195

##### (2) 研究分担者

大川 百合子 (Ohkawa Yuriko)

宮崎大学・医学部・准教授

研究者番号：60270055

##### (3) 連携研究者

西田 佳世 (Nishida Kayo)

聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・教授

研究者番号：60325412